

特定非営利活動法人
足元から地球温暖化を考える市民ネットえどがわ

2019 年度法人総会 議案書



※写真（左上から時計回りに）
総会記念イベント「住む街のエネルギー戦略を考えよう」（6/3）／
大邱持続可能な開発協議会メンバー視察（6/25）／台風によるえど・
そら3号機破損状況（9/30）／えどがわエネルギーカフェ 2019（1/26）

- 第1号議案 2018年度事業報告
- 第2号議案 2018年度会計決算報告
- 第3号議案 2019年度事業計画（案）
- 第4号議案 2019年度会計予算（案）
- 第5号議案 活動手当支給規定に関する件
- 第6号議案 2019～2020年度役員（案）

2019年5月25日 11:30～12:30
タワーホール船堀 401会議室

第1号議案 2018年度事業報告

昨年12月にポーランドで開催されたCOP24では、パリ協定で合意された21世紀後半での「実質排出ゼロ」に向けたルールブックが採択された。パリ協定の本格始動を2020年に控え、政府は有識者懇談会「パリ協定長期成長戦略懇談会」を設置したが、石炭火力発電の全廃を明記した提言案は産業界の抵抗により表現が後退した。さらに、パリ協定に基づき政府が国連に提出する長期戦略案では、原発について安定的に利用を進めていくとされた。野党が国会に提出した原発ゼロ基本法案は審議されることなく、石炭火力発電と原発への依存を強めつつある。また、電力システム改革の中で、発電設備の固定費の一部を小売電気事業者から徴収する「容量市場」が2020年から導入されるが、原発や石炭などの発電設備の固定費を、卸電力市場とは別に小売電気事業者から負担させることは再生可能エネルギーへのシフトにブレーキをかけることが懸念されている。

こうした情勢を反映してか、本会への講師派遣依頼は半減し、視察受け入れも1件にとどまったが、えど・そら5周年イベントでは、自治体エネルギー政策手法やエコタウンえどがわ推進計画の課題について学び、東京大学を中心とした「節電払い」研究成果発表会では省エネ家電買い替えに向けた社会実装の現状と課題について学ぶことができた。また、エネルギーカフェの開催で新たなつながりもできた。第二次エコタウンえどがわ推進計画の目標達成に向けた、具体的な政策実現の方向性が見え、新たな主体との連携による事業展開の可能性が見えた1年となった。

●特定非営利活動に係る事業

1. 家庭・地域における省エネアクションプランの作成とキャンペーンの実施

えどがわエコセンター低炭素社会づくり委員会に参加し、みどりのカーテンモニター事業やソーラーフードドライヤーづくりWSの実施に協力した。また、東京大学を中心とした「節電払い」研究成果発表会に参加し、省エネ家電買い替えに向けた社会実装の現状と課題について学ぶことができた。

<自己評価>

企業との意見交換や計画づくりへの参画といった機会を得て、家庭・地域での省エネ活動推進に向けた事業やキャンペーンの具体化が求められる。

2. 地球温暖化やエネルギー等環境問題に関する研修会の実施等の啓発教育

江戸川区環境フェアへの出展(6月)、えど・そら5周年イベント「住む街のエネルギー戦略を考えよう」(6月)、エネルギーカフェ in えどがわ(1~2月)を開催した。また、他団体が主催するセミナーや学習会への講師派遣を行ったが、4回と前年度に比べ半減した。

<講師派遣実績>

- ① 23区南生活クラブ生協「まちづくりフェア」(6/30)
- ② 第6回東アジア気候フォーラム(7/17)
- ③ 首都圏市民電力交流会(11/17)
- ④ 江戸川総合人生大学(1/16)

<自己評価>

えど・そら5周年イベントでは30名を超える参加者があったが、エネルギーカフェについては周知が十分でなく参加者が少数にとどまった。今後の事業実施にあたって、企画立案と周知活動の工夫に努めていく。

3. 市民出資による自然エネルギー発電所の建設と運営

視察受け入れは、「韓国・大邱持続可能な開発協会」(6月)から視察を受け入れ、事業説明や意見交換を行うことができた。

<自己評価>

視察受け入れが1件にとどまった。国内で動きを広げていくためには、国内関連団体や区民向けに視察先としてアピールしていく必要がある。

4. 地球温暖化防止のための地域行政、国、国際社会、市民への政策提言

えど・そら5周年イベント「住む街のエネルギー戦略を考えよう」(6月)では、元長野県庁政策企画幹の田中信一郎氏を講師に自治体エネルギー政策手法やエコタウンえどがわ推進計画の課題について指摘いただき、区議会を通じて政策推進に向けた区の姿勢を確認することができた。

<自己評価>

様々な機会を捉えて政策提言につながる活動ができたが、これを継続的な話し合いの場にステップアップしていく必要がある。

5. 国内外で開催される、気候変動枠組み条約関連会議への参加やキャンペーンの実施

「気候ネットワーク」や「ストップフロン全国連絡会」の運営に理事として参画すると共に、「パワーシフトキャンペーン」の活動に参加してきた。

<自己評価>

参加にとどまらず、具体的な活動を行うことで、地域活動の必要性を訴えていく必要がある。

6. 政府機関、自治体、事業者、市民、NGOとの交流、連絡提携

環境フェアへの出展(6月)において、「みんな電力」の協力の下に電力自由化セミナーを開催し、その参加者には「パタゴニア丸の内ストア」提供のプロビジョンズフーズを供するといった連携ができた。また、「エコメッセ元気力発電所」「さようなら原発江戸川連絡会」「えどがわエコセンター」の運営に参画しつつ、オフグリッドハウス松江の家の運用では「江戸川子どもおんぶず」と連携してきた。また、日本労働者協同組合との事業連携の動きが始まると共に、聖心女子大学グローバル共生研究所から特別展示(2020年)の要請があった。

<自己評価>

諸団体との交流が広がる中で、具体的なアクションに向けた提携が進んできた。こうした連携を強めることで、活動の多様化につなげていくよう努める。

7. 本法人の目的および地球環境問題全般に関する調査研究および情報の収集と提供

ホームページとフェイスブックの連動による時宜に適した情報発信に努めてきたが、『あしもと通信』はVol.88(5月)~Vol.91(3月)と数年ぶりに4号を発行することができた。調査研究では、「地域生活研究所」エネルギー研究会に参加する一方で、「再生可能エネルギー100%社会の実現に向けて」(8月・千葉)、「市民・地域共同発電所全国フォーラム」(10月・長野)に出席し、最新の知見を得ることができた。また、取材では、FM えどがわに出演したほか、『創省蓄エネルギー時報』(エネルギージャーナル社)、『しんぶん赤旗』、『大江戸あんしんぶん』(東都よみうり新聞社)に活動紹介記事が掲載された。

<自己評価>

『あしもと通信』について、紙面構成を固定化し、執筆を分担することで季刊発行を再開できた。また、前年度に比べ記事掲載が多かった。エネルギーカフェのテーマ設定に関心を引いたためと思われ、事業企画との連携を結び付けた情報発信に努めていく。

●その他の活動に係る事業

1. 発電にかかる事業

台風に伴う近隣からの落下物で3号機が破損し、発電パネルを全て交換する事態となったが、ほぼ全額を保険でまかなうことができ、えど・そら1号機、2号機を含め、概ね想定通りの発電量を確保できた。また、発電5周年にあたり出資者に返礼品を送ることができた。

<自己評価>

単なる発電事業ではなく、エネルギーシフトに向けた情報発信拠点となるよう、供給先である「みんな電力」とのさらなる連携強化を図っていく必要がある。

2018年度 事業活動日誌

- 4月12日 ●第1回運営委員会
- 5月06日 『あしもと通信 Vol.88』を発行
- 5月14日 ※FM えどがわに出演
- 5月17日 ●第2回運営委員会
- 6月02日 第30回江戸川区環境フェアに出展
- 6月03日 2018年度定時総会+えど・そら5周年イベント「住む街のエネルギー戦略を考えよう」を開催
- 6月10日 気候ネットワーク20周年イベントに出席
- 6月18日 ストップ・フロン全国連絡会総会に出席
- 6月21日 ●第3回運営委員会
- 6月25日 韓国「大邱持続可能な開発協会」メンバーが視察に来訪
- 6月30日 ◇23区南生活クラブ「まちづくりフェア」に出講
- 7月03日 元運営委員会・添田さんを囲む会を開催
- 7月17日 ◇第6回東アジア気候フォーラム（西安）に登壇
- 7月24日 ●第4回運営委員会
※エネルギージャーナル社『創省蓄エネルギー時報』に会の活動紹介記事が掲載される
- 8月18日 夏の板取交流ツアー（～20日）
- 8月19日 いちかわ電力コミュニティ運営委員会に出席
- 8月23日 「再生可能エネルギー100%社会の実現に向けて」に参加
- 8月24日 セミナー「地域エネルギーとお金の未来」に参加
- 8月25日 『あしもと通信 Vol.89』を発行
- 9月11日 ●第5回運営委員会
- 9月26日 パタゴニア丸の内ストア環境井戸端会議に参加
- 10月01日 台風に伴うえど・そら3号機の破損を確認
- 10月05日 市民・地域共同発電所全国フォーラム（長野県飯田市）に出席
- 10月06日 えど・そら3号機の落下物撤去作業
- 10月15日 ●第6回運営委員会
- 11月07日 生活クラブ生協首都圏学習会「送電線は本当に空いていないのか」に参加
- 11月13日 ●第7回運営委員会
- 11月17日 ◇首都圏市民電力交流会でコメンテーターを務める
- 11月18日 松江の家バザーでスマホ充電のデモを実施
- 11月21日 パタゴニア丸の内ストアでソーラーフードドライヤー作りWSを開催
- 11月25日 いちかわ電力コミュニティ第1号発電所お披露目会に出席
『あしもと通信 Vol.90』を発行
- 12月10日 ●第8回運営委員会
- 12月20日 東京大学「節電払い」研究成果発表会に参加
- 12月23日 市民ファーム忘年会に参加
- 1月09日 地域生活研究所エネルギー研究会に出席
- 1月11日 市民電力連絡会有志による愛知県新城市エネルギー政策を視察
- 1月15日 ●第9回運営委員会
- 1月16日 ◇江戸川総合人生大学に出講
- 1月25日 ※『しんぶん赤旗』に松江の家紹介記事が掲載される
- 1月26日 えどがわエネルギーカフェ2019（第1回）を開催
- 2月06日 地域生活研究所エネルギー研究会で生活クラブエナジーを訪問
- 2月09日 えどがわエコセンター主催「ソーラーフードドライヤー作り」をサポート
- 2月15日 ※『大江戸あんしんぶん』（東都よみうり新聞社）にエネルギーカフェの記事が掲載される
- 2月16日 えどがわエネルギーカフェ2019（第2回）を開催
- 2月21日 ●第10回運営委員会
- 2月22日 市民電力連絡会総会+記念講演会に出席
- 2月23日 えどがわ子どもおんぶず新年会に参加
- 3月09日 PV-Net「2019年問題学習会」に参加
- 3月10日 『あしもと通信 Vol.91』を発行
- 3月19日 ●第11回運営委員会
- 3月26日 日本労働者協同組合・遠藤氏と事業連携打ち合わせ

第2号議案 2018年度会計決算報告

1) 活動計算書

(単位:円)

	非営利活動 に係る事業	その他の事業	合計	前期実績
I 経常収益				
売電売上	0	2,372,536	2,372,536	2,497,580
会員会費収入	27,000	0	27,000	12,000
寄付金収入	88,036	0	88,036	86,830
講師派遣収入	60,782	0	60,782	182,500
その他収入	103,500	4,811,000	4,914,500	494,999
受取利息	0	224	224	4,615
経常収益計	279,318	7,183,760	7,463,078	3,278,524
II 経常費用				
1.事業費				
福利厚生費	0	0	0	3,000
広告宣伝費	0	0	0	7,960
荷造運賃	0	7,904	7,904	0
交際費	0	208,677	208,677	0
会議費	57,202	0	57,202	58,803
旅費交通費	14,220	0	14,220	0
通信費	0	18,690	18,690	0
備品消耗品費	11,193	96,641	107,834	78,081
修繕費	0	4,860,000	4,860,000	40,000
水道光熱費	0	26,034	26,034	25,809
諸会費	40,500	0	40,500	25,000
支払手数料	0	434,916	434,916	2,484
地代家賃	0	64,800	64,800	64,800
保険料	0	0	0	74,620
支払報酬料	0	10,000	10,000	0
寄付金	100,000	0	100,000	0
教材費	5,000	0	5,000	40,000
減価償却費	0	1,257,164	1,257,164	1,425,357
雑費	0	200	200	0
貸倒損失	0	0	0	20,000
2.管理費				
広告宣伝費	2,021	51,979	54,000	0
会議費	157	4,043	4,200	344,565
旅費交通費	412	10,588	11,000	30,940
通信費	3,455	88,870	92,325	119,431
消耗品費	1,955	50,275	52,230	13,831
支払手数料	126	3,248	3,374	10,542
地代家賃	2,246	57,754	60,000	60,000
支払報酬料	6,063	155,937	162,000	86,400
印刷費	311	8,007	8,318	64,260
経常費用計	244,861	7,415,727	7,660,588	2,595,883
当期経常増減額	34,457	-231,967	-197,510	643,595
経理区分振替額			0	0
税引前当期正味財産増減額			-197,510	643,595
法人税、住民税及び事業税			70,238	108,839
当期正味財産増減額			-267,748	534,756
前期繰越正味財産			2,013,598	1,478,842
次期繰越正味財産			1,745,850	2,013,598

2) 貸借対照表

(単位:円)

科目	金額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	0		
普通預金	5,713,604		
売掛金	507,664		
前払費用	4,320		
流動資産合計		6,225,588	
2. 固定資産			
(1)有形固定資産			
機械装置	9,396,792		
有形固定資産計	9,396,792		
(2)無形固定資産	0		
(3)投資その他の資産			
出資金	50,000		
投資その他の資産計	50,000		
固定資産合計		9,446,792	
資産合計			15,672,380
II 負債合計			
1. 流動負債			
未払金	270,222		
前受金	2,000		
預り金	2,205		
未払法人税等	70,000		
流動負債計		344,427	
2. 固定負債			
えど・そら債	11,480,000		
小松川信用金庫 融資	2,132,000		
固定負債合計		13,612,000	
負債合計			13,956,427
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		2,013,598	
当期正味財産増減額		-297,645	
正味財産合計			1,715,953
負債及び正味財産合計			15,672,380

3) 財産目録

(単位:円)

科目	金額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
手元現金	0	
普通預金		
三菱東京UFJ銀行 小松川支店	368,624	
小松川信用金庫 菅原橋支店	839,104	
ゆうちょ銀行 振替口座	61,815	
小松川信用金庫 定期預金	1,924,061	
小松川信用金庫 定期積立	2,520,000	
売掛金		
売電料	507,664	
前払費用		
総会会場費	4,320	
流動資産合計		6,225,588
2. 固定資産		
(1)有形固定資産		
機械装置(太陽光パネル5ヶ所)	9,396,792	
有形固定資産計	9,396,792	
(2)無形固定資産	0	
(3)投資その他の資産		
出資金(小松川信用金庫)	50,000	
投資その他の資産計	50,000	
固定資産合計		9,446,792
資産合計		15,672,380
II 負債合計		
1. 流動負債		
未払金		
事務所家賃及びインターネット等使用料	182,318	
屋根賃貸料	64,800	
その他(電気料金等)	23,104	
前受金	2,000	
預り金		
源泉所得税	2,205	
未払法人税等	70,000	
流動負債計		344,427
2. 固定負債		
えど・そら債 1号	4,980,000	
えど・そら債 2号	4,000,000	
えど・そら債 3号	2,500,000	
小松川信用金庫 えどそら3号融資	2,132,000	
固定負債合計		13,612,000
負債合計		13,956,427
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産	2,013,598	
当期正味財産増減額	-297,645	
正味財産合計		1,715,953
負債及び正味財産合計		15,672,380

監査の結果、上記のとおり相違ありません。

2019年5月22日

監事 館岡景子



第3号議案 2019年度事業計画案

★脱原発・低炭素社会に向けた可能性の実践と提案

政府および産業界は、エネルギー政策において石炭火力発電と原発への依存を鮮明にしつつあるが、各地で建設が計画された石炭火力発電は、新たな公害発生を懸念する地域住民の反対や電力需要の低迷などに伴う採算性の低さから建設計画の中止が相次ぎ、原発についても規制基準に基づく安全対策やテロ対策工事の長期化や工事費上昇による廃炉や再稼働延期が取り沙汰されており、日本のエネルギー政策は全く進まない状況にある。一方、自治体では、福島県葛尾村が出資する自治体新電力「葛尾創生電力」が自営線と太陽光発電、蓄電池を組み合わせる地産地消の実現をめざす等、再生可能エネルギー導入に向けた様々な動きを見せている。

第二次エコタウンえどがわ推進計画がスタートした江戸川区では、具体的な施策実施に向けた企画・立案の動きが見えない状況にある。地震発生に伴うブラックアウト（全域停電）が現実となる中で、防災対策としての再生可能エネルギーの活用や家庭における省エネ推進策の具体化に向けて、江戸川区やえどがわエコセンターとの協議を進めると共に、パタゴニアやみんな電力、日本労働者協同組合等との連携による事業の具体化や社会的発信力強化に努めていく。また、昨年度に引き続き、運営を担う次世代の人材獲得に力を入れていきたい。

●特定非営利活動に係る事業

1. 家庭・地域における省エネアクションプランの作成とキャンペーンの実施

「えどがわエコセンター」低炭素社会づくり委員会に参加し、省エネ・節電チャレンジやみどりのカーテンモニター事業に関わると共に、第2次エコタウンえどがわ推進計画の策定を受けて、具体的な省エネアクションプランやキャンペーンについて江戸川区やえどがわエコセンターとの協議を開始し、その実現を図る。

2. 地球温暖化やエネルギー等環境問題に関する研修会の実施等の啓発教育

江戸川区環境フェアに出展し、来場者に気候変動問題やエネルギー問題への啓発を行うと共に、事業の具体化に向け、5月には総会開催に合わせてミニシンポジウム「電気代をダイエットするしくみを作る！」を開催する。また、江戸川総合人生大学への出講など、他団体が主催する学習会への講師派遣を積極的に行う。また、エネルギーカフェを企画開催すると共に、聖心女子大学グローバル共生研究所での特別展示（2020年）に向けた展示企画の内容を検討する。

3. 市民出資による自然エネルギー発電所の建設と運営

市民立発電所やえどがわ市民発電プロジェクト“えど・そら”への視察受け入れを、11月に岡山で開催予定の市民・地域共同発電所全国フォーラム実行委員会や市民電力連絡会の運営に参画し、市民発電事業の普及・拡大に資する。

4. 地球温暖化防止のための地域行政、国、国際社会、市民への政策提言

「気候ネットワーク」や「eシフト」「市民電力連絡会」「グリーン連合」などが企画・主催する政策提言活動に参加していく。また、第2次エコタウンえどがわ推進計画の策定を受けて、具体的な政策提案を江戸川区等に行い、その実現をめざす。

5. 気候変動枠組み条約関連会議への参加やキャンペーンの実施

「気候ネットワーク」や「ストップフロン全国連絡会」の運営に理事として参画すると共に、それらを含む団体が主催する、気候変動対策キャンペーンや再生可能エネルギーの普及拡大に向けた「パワーシフトキャンペーン」の活動に参画していく。

6. 政府機関、自治体、事業者、市民、NGOとの交流、連絡提携

「パタゴニア丸の内ストア」とは自立電源づくり WS や環境フェア出展等を通じて交流・連携を深めていくと共に、再生可能エネルギーの導入促進に資する共催事業を企画・実施する。また、エコメッセ元気力発電所、さようなら原発江戸川連絡会、えどがわエコセンターの運営に参画しつつ、江戸川子どもおんぶずと連携するオフグリッドハウス松江の家の運用では太陽光発電の増設を進める。

7. 本法人の目的および地球環境問題全般に関する調査研究および情報の収集と提供

当会の事業目的や活動状況を広く知ってもらうため、ホームページとフェイスブックの連動による時宜に適した情報発信に努めると共に、『あしもと通信』の計画的な発行を進める。そして、これまでの活動の中で蓄積されたデータの散逸を防ぐため、クラウドサーバへのデータ保存を試行する。また、活動に資する団体等との交流等を通じて情報を収集に努め、必要な実践を行う。

●その他の事業

1. 発電にかかる事業

電力供給先である「みんな電力株式会社」との事業連携を強めことで、えど・そら発電所での再生可能エネルギー発電による電気が実際に使われ、気候変動対策に貢献することを示していく。

**第4号議案 2019年度予算案
活動計算書**

	非営利活動 に係る事業	その他の事業	合計
I 経常収益			
売電売上	0	2,400,000	2,400,000
会員会費収入	30,000	0	30,000
寄付金収入	100,000	0	100,000
講師派遣収入	80,000	0	80,000
その他収入	100,000	0	100,000
受取利息	0	300	300
経常収益計	310,000	2,400,300	2,710,300
II 経常費用			
1.事業費			
荷造運賃	0	10,000	10,000
交際費	0	20,000	20,000
会議費	60,000	0	60,000
旅費交通費	20,000	0	20,000
通信費	0	20,000	20,000
備品消耗品費	10,000	100,000	110,000
水道光熱費	0	30,000	30,000
諸会費	40,000	0	40,000
支払手数料	0	450,000	450,000
地代家賃	0	64,800	64,800
支払報酬料	0	10,000	10,000
寄付金	100,000	0	100,000
教材費	5,000	0	5,000
減価償却費	0	1,257,164	1,257,164
雑費	0	200	200
2.管理費			
広告宣伝費	4,000	50,000	54,000
会議費	500	4,000	4,500
旅費交通費	2,000	9,000	11,000
通信費	10,000	80,000	90,000
消耗品費	5,000	45,000	50,000
支払手数料	500	3,000	3,500
地代家賃	10,000	50,000	60,000
支払報酬料	22,000	140,000	162,000
印刷費	1,000	8,000	9,000
経常費用計	290,000	2,351,164	2,641,164
当期経常増減額	20,000	49,136	69,136
経理区分振替額			0
税引前当期正味財産増減額			69,136
法人税、住民税及び事業税			70,238
当期正味財産増減額			-1,102
前期繰越正味財産			2,013,598
次期繰越正味財産			2,012,496

※返済積立金として1,440,000円(120,000円×12月)を積み立てる予定である。

※処理費用として360,000円(30,000円×12月)を積み立てる予定である。

第5号議案 活動手当支給規定に関する件

特定非営利活動法人 足元から地球温暖化を考える市民ネットえどがわ
活動手当の支給に関する規定（案）

第1条（目的）

本規定は、特定非営利活動法人足元から地球温暖化を考える市民ネットえどがわ定款第17条に基づき、活動手当を支給することを目的とする。

第2条（活動手当の支給範囲）

前条に定める活動手当の支給範囲は、特定非営利活動法人足元から地球温暖化を考える市民ネットえどがわ（以下、「本会」という）の理事および運営会員が従事する活動にかかる実費相当とする。

2 前項活動の範囲は次の通りとする

- (1) 発電事業（その他の事業）にかかる作業および宣伝・周知、渉外活動
- (2) その他、運営委員会で出席理事の承認を受けた活動

第3条（会計区分）

前条に定める活動手当は、その他の事業会計から支出する。

第4条（活動手当の金額）

第2条に定める活動手当は、1回の従事活動につき、半日1,000円以上、全日2,000円以上とする。
なお、従事活動が半日に満たない時間であっても半日分を支給する。

第5条（申請手続き）

第2条に定める活動手当の支給を受ける理事および運営会員は、所定の申請書を事前に運営委員会に提出し、出席理事の承認を受けるものとし、事後に時間数を運営委員会に申告し、費用弁償の支払いを受けるものとする。

2 申請書には、氏名、活動日、時間、内容を記載する。

第6条（報酬との関係）

活動手当の対象活動において、活動に従事した理事および運営会員が別途報酬を受け取る場合は活動手当を支給しないものとする。なお、次の場合はこの限りではない。

- (1) 報酬が本会に直接支払われる場合
- (2) 報酬を受けた理事が報酬全額を本会に寄付した場合

第7条（その他）

各条の規定に定めていない事項については、運営委員会で協議の上、決定する。

付則

本規定は、2019年4月1日から適用する。

第6号議案 2019～20年度役員案について

	役名	(フリガナ) 氏 名	住 所 又 は 居 所	備 考	再新
1	理事	ナラ ユキ 奈良 由 貴	東京都江戸川区臨海町2丁目2番8号 504号		再
2	理事	ヤマザキ モトヒロ 山崎 求 博	東京都江戸川区中葛西7丁目7番8号 ダイアパレス葛西Ⅱ504号室	事務局長	再
3	理事	オオコウチ ヒデヒト 大河内 秀 人	東京都江戸川区東小松川2丁目5番12号		再
4	理事	ヤナギザワ イチロウ 柳 澤 一 郎	東京都江戸川区東小岩4丁目6番10号		再
5	理事	フジイ アキコ 藤居 阿 紀子	東京都江戸川区清新町1丁目4番15号 シティコープ清新706号室		再
6	監事	タテオカ ケイコ 館 岡 景 子	東京都江戸川区瑞江2丁目33番5号		再